

微小粒子状物質成分分析調査結果

平成 24 年度の調査結果は下表のとおりです。季節別では春が PM_{2.5} の濃度が一番高くなりました。また、冬は他の季節より硝酸イオンとアンモニウムイオンが高くなりました。年度平均濃度の割合は硫酸イオン 36%、アンモニウムイオン 16%、硝酸イオン 6.8%などの二次生成粒子※が多く占めました。

※微小粒子状物質には物の燃焼等により直接排出される一次粒子と、硫黄酸化物 (SO_x)、窒素酸化物 (NO_x) のガス状大気汚染物質が、主として環境大気中での化学反応により粒子化した二次生成粒子があります。

微小粒子状物質成分分析調査結果 (平成 24 年度)

単位：μg/m³

項目		春 (5月)	夏 (7月)	秋 (10~11月)	冬 (1~2月)	年度 平均濃度	成分割合 (%)
塩化物イオン	Cl ⁻	0.047	0.062	0.14	0.15	0.10	0.63
硝酸イオン	NO ₃ ⁻	0.72	0.28	1.0	2.3	1.1	6.8
硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	6.1	6.0	4.2	6.4	5.7	36
ナトリウムイオン	Na ⁺	0.086	0.048	0.090	0.11	0.083	0.52
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	2.5	1.7	2.2	3.7	2.5	16
カリウムイオン	K ⁺	0.12	0.053	0.12	0.11	0.10	0.6
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.027	0.0070	0.017	0.013	0.016	0.10
カルシウムイオン	Ca ²⁺	0.065	0.063	0.0030	0.0011	0.033	0.21
無機元素		0.63	0.37	0.82	0.63	0.61	3.9
その他		7.4	6.1	7.0	2.2	5.7	36
(参考) 微小粒子状物質	PM _{2.5}	18.1	14.7	15.3	15.4	15.9	

※PM_{2.5} の濃度は佐賀局の自動測定機の濃度を採用した。

※検出下限値以下の濃度は測定値の数値をそのまま採用した。